

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05010070

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	6 保健・医療の充実	事業優先度	A	
単位施策	3 母子保健・女性の健康支援の充実	政策事務分類	4 法定自治事務	
事業名	発達支援事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	8 保育所	
事業指標	5歳児健診受診率		12 教育委員会教育振興課	
事業目標	90%	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	有	関係例規・法令名	有	母子保健法、発達障害者支援法
住民協働	発達障がいへの理解・関心の向上	関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	発達障がいの早期発見と適切な支援への連携を図るために、乳幼児健診及び5歳児健診及び実施及び保育所、小中学校等関連機関と発達支援に係る相談事業等を実施する。	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	
	事業費(千円)	500	100	100	100	100	
計 画 事 業 費	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	500	100	100	100	100	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	228	50	45	40	53	
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	228	50	45	40	53		
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) ・5歳児健診受診率 100% ・支援者検討会 1回 ・発達支援講話 1回出席者19名 ・個別相談 2回 60件  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・5歳児健診受診率 92.6% ・支援者検討会 9回 ・発達支援講話 1回出席者53名 ・個別相談 2回 12件  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・5歳児健診受診率 94.9% ・支援者検討会 16回 ・個別相談 2回 7件  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・5歳児健診受診率 100% ・支援者検討会 7回 ・個別相談 2回 13件 ・発達支援講話 2回 出席67名  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・5歳児健診受診率 97.1% ・支援者検討会 31回 ・個別相談 3回 14件 ・発達支援講話 2回 出席55名  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	90%	90%	90%	90%	90%
		年度達成率	50%	45%	40%	40%	53%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	10%	19%	27%	35%	46%
	備考欄						

事業名	発達支援事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	保健係長	小野 美和

様式1  
平成29年度実施  
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童及び保護者、保育・教育関係者等支援者、その他発達に心配がある町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	5歳児健診受診率	
【抱える課題やニーズは】	就学前の幼児期は発育、発達が盛んであり差異が出る時期である。就学・就職後にコミュニケーションや学業、就業に悩みが生じ、二次障害をきたす可能性がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	本人や家族が特徴を知ることができ、その人らしく生活ができるようになる。	① 5歳児健診受診率	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	発達障がいへの理解が進み、自身の特徴に合わせた生活を営む町民が増える。		目標値	90%
			実績値	97.1%
			達成度	107.9%
		② 5歳児健診受診率(前年比)	目標年度	平成29年度
			目標値	100%
			実績値	97.1%
			達成度	97.1%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	5歳児健診実施	乳幼児健診と同日で健康診査、心理士による心理相談、発達支援センター相談員による発達相談、栄養・歯科相談を実施した。		
	保育・教育関係者等支援	保育所保育士、学校教諭の日常の関わり方や集団場面における合理的配慮等について支援者支援を実施した。		
	個別支援	幼児期から思春期・成人期まで、相談希望にあわせて保育所や学校、職場等の関係機関と調整も行いながら、個別相談を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	発達障がい者支援法により、発達障がいの早期発見、早期支援は市町村の義務である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	5歳児健診受診率について、家族の都合により欠席となったものが1件あったが高率で経過している。支援者支援の要望は昨年よりも高く件数が増大した。また、保護者からの個別相談についても継続して相談希望者がいる状況。学習会も継続実施しており、支援者の力量形成の機会となっている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	紋別市幼児療育センター療育アドバイザー事業の活用により、費用弁償等町の負担なく講師を招聘できたことで、相談機会が拡大した。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	5歳児健診は対象者に個別通知を行い、必要性を伝えている。発達個別相談は、広報で周知しており公平である。また、保育所や学校へも事業周知を行っている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
健診及び支援者支援等の実施により発達障がいの理解者が増えている。		

今後の展開方向  
(Action)

<b>継続/現状維持</b>		
今後も幼児期から学童期、思春期、成人期での発達障がい等による健康や生活への支障が発生しないような環境作りと早期支援が必要である。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止